

\*出典：「旅する長崎学2」 長崎文献社

# 流転のその果てに

## 4少年とセミナリヨのその後

キリシタンの庇護者であった信長の死、1587年に発令された秀吉の伴天連追放令などを境に、セミナリヨとそこに通う学徒の環境は一変します。時代にはんろうされるセミナリヨの生徒ら。そして4少年に待ち受ける過酷な運命とは？

### 帰国した少年ら

1590年7月に帰国した4人を待っていたのは、伴天連追放令（宣教師の国外追放令）に端を発する禁教への流れでした。4人は天草の修練院で学ぶも、1601年には、千々石ミゲルが



移転先となった北有馬町八良尾からの眺め。場所によっては、原城を臨むことができる。

棄教。1612年に布教の禁止を定めた禁教令が發布されたその年、伊東マンシヨが過労で病死します。

1614年には、原マルチノがマカオへ渡り、現地で人生を終える一方、日本に残った中浦ジュリアンは、殉教の道を選びました。棄教する者。殉教を選ぶ者。日本を去る者。そして、苛烈な迫害を知らぬまま死亡する者。意図せず選んだ四者四様の人生は、当時の民衆が選ぶうる全ての選択肢であった、とは言えないでしょうか。

### セミナリヨのその後

幕府のこうした動きは、セミナリヨとそこに通う学徒の環境も一変させます。セミナリヨは、人目を避けるように目立たない場所へと移転。最



佐藤仁美さん（中央）。平山尚輝君（右）

## そして再びローマへ、世界へ！

平成を生きる中学生らが、天正遣欧少年使節の足跡をたどる「平成遣欧少年使節」。これは、ゆかりの地である南島原市、大村市、西海市、雲仙市、波佐見町、宮崎県西都市の5市1町が派遣したものです。南島原市からは、北有馬中学校の佐藤仁美さんと有家中学校の平山尚輝君が選ばれました。2人の見たイタリア。そして世界とは？

### ローマ法王との謁見

「イタリアどころか、海外経験も今回が初めてです」と話す2人。その2人が、出発前も、そして帰国後も真っ先に話したのが、「ローマ法王との謁見」でした。「残念でした」と、平山君。「感動しました」と、佐藤さん。ローマ法王への特別謁見（個別での会見）は、法王の体調不良のため中止。急きょ一般

謁見に切り替え、広場に集まった信者ら数千人と共に、法王からの歓迎のあいさつを受けました。「特別謁見はかないませんでしたが、集まった人たちの感激ぶりに、謁見の重みがわかりました」と佐藤さん。「長い年月をかけてやっと謁見した4少年は、私たちに想像もつかないほどの感動をしたのでしょね」



中浦ジュリアン穴吊りの図  
『日本殉教精華』より筑波大学附属中央図書館蔵

→2008年に長崎で行われた列福式では、4人のうちジュリアン1人だけが「福者」という特別な地位を与えられている。

最終的には、長崎の現県庁一帯にあったトードス・オス・サントス教会に集まります。しかしそれも長く続かず、1614年の禁教令発令と共に、セミナリヨ、コレジヨの歴史も幕を閉じました。

### 未来へ！

現在、南島原市では、「原城」「日野江城」「吉利支丹墓碑」の世界遺産登録に向けて、さまざまな活動を行っています。思惑や利権、そして祈りが複雑に交錯する歴史には、世界が感嘆するほどの価値があります。

私たちは、こうした価値あるふるさとの歴史を学び、誇りを持つて次の世代に語り継いでいくことが必要なのです。

### 出会いが育む

かけがえない仲間ができた旅でもありました。「女子の間では、『また一緒にイタリアに行こうね』って話にもなったんですよ」（佐藤さん）平山君も、「波佐見町の原田太一君との出会いは衝撃的でした。明るくて、にぎやかで。特に初めての人にもどんどん話しかけるのには驚きました。僕らもつられて、現地の人にもどんどん話しかけるようになりましたけど（笑）」と、仲間との出合いを振り返ります。

また、佐藤さんは、現地の高校生と交流を行った際、フェイスブックを使っているか尋ねられました。「NOと答



有馬の聖歌隊で学んだ聖歌を披露する佐藤さんと、紹介をする平山君

えた自分が恥ずかしくて。これからは、英語の勉強を頑張つて、色々なツールを使いこなせるようになりたいですね」と反省しきり。新しい出会いや仲間からの刺激が、自分自身を高めていく。それも、4少年と同じようです。



書道体験。つづりの間違いも可愛嬌

### 旅の終わりに

そのほかにも、一行はミラノやフィレンツェなど各地を訪問。平山君は、中でもベネチアがお気に入りなのだとか。運河を行き交う船ののどかさ、何とも言えない風情を感じたそうです。「今回の旅で、世界について自分がいかに無知で、無関心だったかを思い知りました。もっと世界に目を向けて、これからの人生を送りたいと思います（平山君）」

少年使節訪問の記念碑（リミニ博物館）日本人に対する公開は、今回が初。また、中浦ジュリアンの子孫の小佐々学さん（リミニ市名誉市民）とも会うことができました。

## 南島原市国際交流員 アンナ・スベッキオさんが着任！



**プロフィール**  
氏名：スベッキオ・アンナ（1985年生）  
出身：イタリア共和国 ピエモンテ州 ヴェルチェッリ県  
学歴：トリノ大学、トリノ大学大学院、東京外国語大学特別聴講生  
趣味：サッカー、音楽鑑賞、カラオケ、演劇など

## イタリアとの交流、再び始まる！！

天正遣欧少年使節が訪れたイタリアから、国際交流員「アンナ・スベッキオ」さんが着任しました。ピエモンテ州出身の彼女は、トリノ大学の大学院などで日本語を学んだ他、東京外国語大学に交換留学生として学んだ経験や、金沢でのホームステイの経験があるなど、日本語が堪能で、漢字も書くことができるほど。イタリアからの国際交流員は、南島原を含め、全国で4カ所とごく少数です。「バリニャーノ神父の相互理解の精神で交流したい」と話すアンナさん。イタリアとの距離が、また一つ近くなりました。



マントヴァ公文書館で記帳する平山君

### 関係した全ての人へ

今回、2人別々に電話取材をしました。にもかかわらず、2人は同じ言葉で最後を締めくくりました。「関係者の皆さん、貴重な経験を、ありがとうございました」

海外を巡り、たどりついた答え。それが身近な人たちへの感謝だったことも、一つの成果ではなかったか。そう思っています。

